

参加者による記録

2020年1月25日(土)

18:00～ 事前学習会・結団式

羽田空港国際線に隣接しているロイヤルパークホテル羽田で事前学習会と団結懇親会を行った。事前学習会では、澤田会長から、参加者と派遣組織へのお礼とともに、ツアーの趣旨等についての挨拶を受けた。次に、参加者は、自己紹介するとともに参加する上での思い等を披露した。その後、鈴木事務局長がアジア連帯委員会の歴史と活動概要について説明した後、訪問先等について説明し、旅行会社の蛭谷さんから、ツアーの注意事項等について説明があった。

最後に団長、副団長と役割分担等を決め、訪問先への土産を確認した。

事前学習会の後、場所を移して団結懇親会をおこなった。最初は緊張していたメンバーもすぐに打ち解け、和やかな雰囲気の中で、2020W S Tがスタートした。



事前学習会



羽田空港から出発

2020年1月26日(日)

NH849便 00:05 羽田 → 05:00 バンコク

深夜に羽田空港を飛びたった飛行機は、早朝、バンコクのスワンナプーム国際空港に到着。国際線乗り継ぎカウンターに移動。手荷物と身体検査をした後、空港内のレストランで、休憩と打合せを行い、バンコクエアーでビエンチャンに向け出発した。



市内視察

PG943便 09:45 バンコク →
11:00 ビエンチャン

ビエンチャンのワットイ国際空港にはバンコクから1時間程で到着。空港では、通訳・コーディネーターのフンペンさんと合流し、専用車で市内のホテルに移動した。

その後、市内のラオス麺レストランで昼食をとった。さらに、タートルアン寺院、パトゥーサイ凱旋門を視察するとともに、車窓からビエンチャン市内を見学した。

夜は、宿泊ホテルの屋上にあるメコン川を見渡すことができるレストランで、ラオス料理を堪能した。レストランには、サントイパーブ高校生寮の第1期卒業生のヌーソン君も合流し、日本語で参加者と交流した。



ヌーソン君と交流

2020年1月27日（月）

宿泊しているセンタワンリバーサイドホテルを出発し、午前・午後とCSAが寄贈した小学校へ中古衣類寄贈と学校の現状確認および要望、生徒との交流を目的に2校を訪問した。

10:00～ ナラオ村小学校（11番目校）

報告：小林 孝徳

車で市街地を抜け郊外へ。到着すると、すでに校庭に生徒が集まりブンサイ校長をはじめ先生と生徒に迎えられ、寄贈式の会場へ。

冒頭、鈴木事務局長から今回の訪問の趣旨説明、その後CSAを代表して薦田副団長が挨拶をし、山根木団長からブンサイ校長へ中古衣類の寄贈がおこなわれた。寄贈を受け、ブンサイ校長より「2001年に作ってくれたナラオ小学校に来てくれ感謝申し上げる。ナラオ村には3,232人の535世帯が住んでおり、ラオ族とモン族が1：2である。一方、50km離れた隣村は約3,200人が住んでおりラオ族とモン族が1：1である。この小学校には隣村から通っている子供を多くいる。ナラオ村から通っている子供が380名で隣村から通っている子供が約350名、その他から約80名通っている。この小学校へ通う生徒は、毎年30人位増えており今年801人に生徒になった。子供の数からすれば、学校が足りないの、できればCSAの支援によって、もう1校つくってほしいと思う。教員数は、22名でその内12名が女性である。その他、ボランティア教員が2名いる。この交流がすすみ、毎年交流できればよいと願っている」と挨拶と報告があり、山根木団長に感謝状が渡された。



ナラオ村小学校の生徒と



ナラオ村小学校の校庭で衣類引渡し

寄贈式を終了し、校長の案内で校舎の状況確認をおこなった。その際、校長から「自分達で作った就学前児童教室の古い建物が老朽化しているので、建物の改修について支援してほしい」との要請を受けた。その後、お土産の長縄をつかい、生徒同士の綱引き大会を開催。途中で、先生が飛び入り参加したり、団員も参加したりして交流をはかり、用意されていた昼食を校庭で、先生達と食べ、学校を後にした。

14:00～ クッサンバット小学校（1番目校）

報告：小林 孝徳

C S Aがラオスに24校寄贈している中で、1995年に1番目に建てたクッサンバット小学



クッサンバット村小学校へ衣類引渡し

校に到着した。こちらもナラオ小学校同様、ジャンティー校長の出迎えを受け、校庭の寄贈式会場へ移動した。会場には村長やP T A会長も参加していた。谷口団員よりC S Aを代表して挨拶した。

その後、ジャンティー校長から「全校生徒が48名でその内女性が24名在籍しており、1年生は1クラス、2年～3年生で1クラス、4年～5年生で1クラス、先生は3名おり内1名が女性です。教育が発展するため先生と生徒の状況を見に行政も良く視察にきている。年に2回ある試験でも100%近くが合格して

いる。この村には2校の小学校があり、近隣の子供が通っている。しかし、この学校でいうと生徒数が減ってきている」との報告があり、「校舎は2012年に補修していただいたが、教室の壁の汚れが目立ってきたので、壁塗りの支援をしてほしい」との要請を受けた。



クッサンバット村小学校校舎

次に、山根木団長よりジャンティー校長へ中古衣類の寄贈と手土産や文房具を渡した。その後、生徒との交流として、はじめに、団のメンバーが2クラスに分かれ、ラオ語で各自が自己紹介をし、土産で持ってきた新聞紙で作った兜を頭に被せてあげ、色とりどりの色紙を全員に配布し、身振り手振りで紙飛行機の折り方を悪戦苦闘しながら教えた。なかなか折れない生徒にはメンバーが生徒の横にいき、一緒におっついていき、何とか全員が折ることができ、完成した紙飛行機を各自が手に持ち校庭へ集合。全員が一行になり、メンバーの「ヌーン（1）」「ソン（2）」「サン（3）」の掛け声で、一斉に青空へむかってテイクオフ。思ったように飛ばない生徒、追いかけて行って投げ続ける生徒、校庭に子供たちに笑い声が響いていた。次に、ナラオ村小学校でも行った綱引きを生徒全員とメンバーも一緒になり楽しんだ。ここでは団長から「ラオスで何とか日本の“ガンバロー”を根付かしたい」との思いから、綱引きの各チームでガンバローをやってから開始した。最後に、生徒代表によるラオス民族舞踊を見学し、ガンバローを言いながら小学校を後にした。

2020年1月28日 (火)

9:30～ ラオス教育スポーツ省総合教育局

報告:吉岡 爽

ビエンチャン市内にある教育スポーツ省総合教育局で、シソウク局長よりラオスの教育事情の説明があり、質疑応答を行った。

それによると、ラオスの法律では義務教育は中学校迄となっているが、農村部では途中で学校をやめる人もいる。家庭の中で子供が多いと働かなくてはならないので、学校に行けなくなる現状がある。そのため、農村部と都市部との教育レベルの差が問題となっている。また、先生が農村部に行きたがらないので、都市部では教師が多く、教育省の中でも問題になっている。質疑応答内容は以下のとおり。

- Q. CSAは、今までラオスに24校の小学校を寄贈し、今後も継続したいと思っている。しかし現在既存の小学校の補修に予算を使っているのので、新設するのが難しい。補修工事に対しての教育省の考えを教えてください。
- A. 補修は村人たちがすることになっている。大きな災害等があれば村人たちの手で直せない場合がある。近くに小学校がなく教育を受けられない子どもたちが心配であるため、村人達が、できる限り自分達で補修工事をするよう県や郡に依頼している。
- Q. 学校の先生にはどのようにしてなれるのか。
- A. 学校には先生になるための師範コースがあり、受験資格を持ち試験を受け合格し、卒業すると教師になれる。現状では、都市部では専門的に教える先生が多くいるが、農村部では教師が不足しており、複数の教科を同じ教師が教えている。都市部の教師は、農村部では暮らしぶらく、複数の教科を教えることが負担なので、都市にいる人が多い。今後は教育局として予算を付けて問題解決をしたいと思っている。
- Q. 大学を卒業した人たちが働く場所（国内外）はどのような割合か。
- A. 国外で働く人は少なく、ほとんど国内で働く。教育レベルもまだ高くないので、国内で働く人が多い。



ラオス教育省入口でシソウク局長と



ラオス教育省で意見交換

10:30～ ラオス保健省

報告:吉岡 爽

CSAで取り組んでいる中古衣類の受け入れをしているラオス保健省のナオブッタ事務次官の説明があり、意見交換を行った。事務次官は挨拶の中で「届いた衣類はすでに、ラオス北部地方の貧しい子どもたちに送っている」と述べた。

その後、鈴木事務局長が、「昨年からラオスへの中古衣類の輸送が遅れているので、タイの港で



ナオブッタ事務次官と意見交換



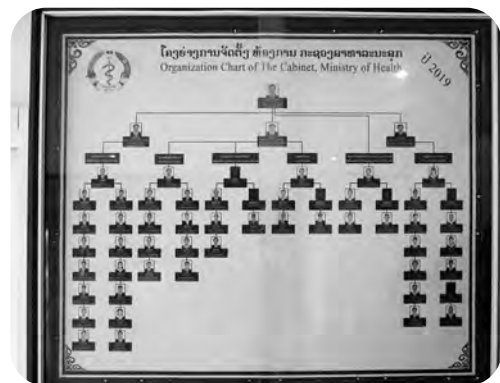
ラオス保健省の前で

の衣類保管料が多額にかかり、CSAとして大変困っている」との報告があり、その議題が意見交換のメインとなった。事務次官は、「今後は配送が遅れないよう運送会社と契約し、輸送の時間短縮できるようにする予定。輸入認可の各省の申請も運送会社がするように契約をする。契約を完了するために、1か月ほどの調査申請をする必要があるため、結果については3月末迄に報告できる予定。契約が完了すればCSAに報告する」と述べた。

保健省では、配送会社の話を中心にした後、昼食会場に移動した。ラオスの老舗レストランで保健省の職員も同席し、食事をともにしながら現地事情など幅広く意見交換を行った。



昼食会場の前で



ナオブッタ事務次官をトップとした
ラオス保健省の組織図

2020年1月28日 (火)

13:30～ ラオス衣類倉庫

報告：藤井 雅実

ラオス保健省の衣類倉庫を訪問し、中古衣料の確認、引き渡し式、衣類の保管方法などについて意見交換を行った。

ラオス保健省ナオブッタ事務次官からは、「今回送付した衣類は、本来11月頃に到着するはずだったが、ラオス国内の諸手続き遅延により1月中旬ようやく受け取り、北部の寒冷地へ優先して約1,500箱を配布し、残りは約2,800箱」との説明を受けた。



ラオス衣類倉庫で引き渡し式



ラオス衣類倉庫での意見交換

さらに担当者から、以下の説明を受けた。日本から届いた衣料は、各地域の要望に合わせて、子ども用・大人用などに分類している。地方の村民が支援を要望すると、村→群→県を經由して保健省へとあがってくる仕組みになっており、倉庫では地方からの要望を受けた後、各地へ必要なものを振り分けて配布している。貧しい家庭では、1週間同じ服を着たりすることもあるため、新しい衣類を届けると非常に感謝されている。

倉庫内には衣類の入った段ボールが大量に山積みになっていたが、湿気や防虫対策は特に行われていない様子だった。この倉庫には、CSAから送付した衣類だけでなく、災害時に被災地を支援するための救援物資が多数保管されていた。

15:00～ 在ラオス日本国大使館

報告：藤井 雅実

在ラオス日本国大使館を訪問し、鈴木事務局長よりCSA活動の説明、保健省や衣類倉庫を訪問してきた旨を報告した後、岩本公使・加藤二等書記官より近年のラオスの状況について資料を基にご説明頂くとともに、意見交換を行った。説明内容は以下のとおり。

ラオスの人口は約700万人で若年層が多く、高齢化が進む日本の構成とは全く異なっている。政治体制はラオス人民革命党による一党支配体制で、2021年には5年に一度の党大会が行われる予定。経済関係では、鉱業や観光業が伸び悩み、現在成長率は緩やかに鈍化傾向。外交関係は全方位外交を基本方針としているものの、ベトナムや中国などの近隣諸国と強い結びつきが構築されている。日本とラオスの外交関係は今年65周年を迎えた。ベトナム戦争での米軍の攻撃により、現在もラオスには不発弾が多く残っているが、日本は不発弾処理の支援に力を入れているとのこと。観光関連では、ラオス⇄日本（熊本）直行便の就航が計画されており、今後は日本人観光客も増加していく見込み。



在ラオス日本国大使館を訪問

説明後に行われた意見交換会では、日本から送付している衣類がスムーズに輸送されていない問題について相談したところ、ラオスでは役所の手続きが全て書類であるため、変更する際に各所での承認等に時間を要していることが判明した。今後のCSA活動は、この現状を理解した上で取り組んでいくことになった。

18:00～ 卒寮生との交流

1月28日（火）、ビエンチャン市内でサンティパープ高校生寮の卒寮生30名と交流し、片言の英語等で交流した後、卒寮生から年度ごとに自己紹介を受けた。卒寮生は外務省や労働省等の政府機関で働いている人が多く、大学生も医者や公務員志望等目的を持って勉強していた。卒寮生は、皆口々に「CSAの支援があって今の自分がある」と感謝の言葉を述べていた。



卒寮生と交流



卒寮生と記念撮影

2020年1月29日（水）

9:00～ ラオス地雷博物館

報告：山根木晴久



ラオス地雷博物館の前で

天井から吊るされた無数の義足、これらは義足ではない。実際に失われた足だ。そして、これからも失われるであろう足だ。腕や手もだ。

ラオスでは、今も年間数百発の不発弾が爆発し犠牲者も後を絶たない。ラオスはアメリカと戦争をしていたわけではない。ただ北ベトナムの移動ルートであったため、アメリカにその国土に大量の爆弾を投下された。その量は約300万トン。今に生きるラオスの人々に、隣国の、しかも50年も前の戦争が今もなお重くのしかかっている。

展示物に見入っていた私にラオス人ガイドのフンペンさんが呟いた。

「数年前に広島に行き原爆の被害を見た時に気が付いた。アメリカは平和を叫ぶが嘘だ。アメリカは戦争が好きな国だ。戦争はビジネスになるからだ。新しい武器を作るために古い武器はいらない。ベトナム戦争の時も最後は古い爆弾や地雷を大量に捨てて帰った。ラオスに残された不発弾を全部調べるには100年かかる。専門家がチームを作って調査しているが追いつかない。田んぼの中にあつたりするので貧乏な子どもたちが見つけてそれを売ろうとする。時々それが爆発して足とか手が吹っ飛ぶ…」

言いようのない理不尽さを感じた視察であった。



地雷博物館の展示物

11:30 ビエンチャン発（QV101） → ルアンプラバン着

2020年1月30日 (木)

9:30～ ルアンプラバン県教育省

報告:高橋 聡



ルアンプラバン県教育省を訪問



県教育省の前で

ルアンプラバン県教育省を訪問し、ボアチャン副局長から県の教育状況について説明を受け、意見交換を行った。

まずは鈴木事務局長より挨拶をし、チームを代表して藤井さんが挨拶をした。その後、副局長から訪問に対するお礼と、サンティパープ高校の支援に対し、ラオス政府からの支援が少ない中で、CSAからの支援は非常に助かっていること、更には、寮が建設されたことで、これまで高校に通うことを諦めていた子どもたちも、通うことが出来るようになり、また、勉強をする環境が整うことで、大学進学などで優秀な成績を収める学生を多く輩出することができ、他県からもサンティパープ高校のやり方を見学に来ていることなど、ラオスの教育によい影響をもたらしていることなど説明があった。

意見交換の中では、先生が足りていないとの話もあり、専門的なことを教えられる先生は都会に集中し、田舎との教育レベルの格差が生じており、地域間で支えあうことも考えているとのことであった。

最後に鈴木事務局長より、高校生寮の支援に対し締結している契約について、次回2021年の更新の際には、県として出来る支援、高校がやるべきことも確認した上で締結したい旨を申入れ、副局長からはCSAの支援に対する感謝を忘れず、ラオスが発展していけるよう、日本とラオスがともに力を合わせ頑張っていくので、是非継続的な支援をお願いし、日本にいる多くの支援者にも伝えてほしいとの発言があった。

10:00～ サンティパープ高校生寮

報告:高橋 聡

サンティパープ高校生寮に到着すると、多くの寮生と先生方が出迎えてくれた。

まず始めに、寮からの報告があり、そして校長先生からの挨拶があった。それを受け、鈴木事務局長が挨拶をした。寮官からの報告では、現在、各学年30名ずつの全体で90名の寮生がいて、1年生は男子24名、女子6名、2年生は男子20名、女子10名、3年生は男子27名、女子13名が日々勉強を頑張っており、4月には国の試験があるので、それに向け頑張っているとの話であった。さらには昨年の試験も全員合格しているとの報告もあった。また、絵の大会で1位になった寮生もいるとの報告もあった。

寮の生活では、日本のラジオ体操の様に体操をして一日を始め、施設の掃除を自分たち



高校生寮での衣類引き渡し式



絵画の贈呈

で行い、そして、野菜の栽培もしており、食費に寄与している。

次に、校長先生からCSAへの感謝を述べられ、寮生がしっかり勉強できるような環境を整えていると話され、更には、1年生から3年生までみんな頑張っている勉強しており、先輩は後輩を教えたりして、良い環境となっているとあり、最後に引き続きCSAとの交流を行っていききたいとの思いが語られた。

その後、鈴木事務局長から挨拶し、絵の大会で1位を取った寮生から、寮の建物を描いた絵と、CSAが寮を訪問した時の絵が贈呈された。

引き続き、救援衣類の贈呈式を行い、その後、バーシーセレモニーや寮生歌や踊りなどの出し物があり、CSAメンバーも一緒に踊った。そのお返しに、メンバーは、日本労働界の伝統である「ガンバロー三唱」を寮生とともにいった。

最後に、寮生の部屋や調理場を視察し、破損や器具の状態を確認し、寮を後にした。

17:20 ルアンプラバン発 (PG946) → 18:50 バンコク着

2020年1月31日 (金)

10:30～ タイ救援衣類引渡式 (タイ社会開発福祉省)

報告: 薦田 弘幸

救援衣類引渡式へ出席のため、タイ社会開発福祉省へ移動。予定時間より、少し早く到着したため、別室に通され、待っている間に、飲み物と軽食をいただいた。

その後、社会開発福祉省の1階フロアで行われたタイ救援衣類引渡式に出席した。式典会場の飾りつけ等を見ると、支援活動に対する感謝の大きさを実感した。



タイへの衣類引き渡し式

式典が始まり最初に、社会開発福祉省のアナン・ドントリー副局長から「タイの人への永年にわたっての日本からの衣類の支援に本当に感謝している。日本の皆さんに有難うと是非伝えて欲しい。今後も引き続きの支援をお願いしたい」との謝辞と要請を受けた。その後、鈴木事務局長は「今回CSAは、全国の支援団体・支援者からの協力により衣類をタイ・バンコクに段ボール4,600個を贈ること

が出来た。今後も、活動の継続を呼びかけていきます」と挨拶をした。式典の終盤に、タイの社会開発福祉省の大臣も公務途中に駆けつけてくれた。団員全員と握手を交わし直接感謝の言葉を頂いた。最後に式典に出席していた職員達も交えて、記念撮影をして式典を終了した。



タイへの衣類引き渡し式

13:00～ タイ社会開発福祉省衣類倉庫

報告：薦田 弘幸

タイ社会開発福祉省倉庫管理部門担当者のロチャナートさんに対応して頂き、意見交換や倉庫の見学を行った。最初に、CSAの活動に対する謝辞が述べられ、意見交換を行った。こちらからの、衣類の保管・配布管理についての質問に対する答えは以下のとおり。

- ① 保管については、配布までの期間が短いので、衣類が痛む前に配布している。害虫対策も含め特別な対応はしていないとのこと。
- ② 配布については、衣類を種類別に仕分けして、100枚単位で再梱包して自然災害の被災地などに優先的に配布される。
- ③ 国内に11ヵ所の支援施設事務所があり、貧困者、障がい者など5,300人が生活している。支援施設での生活者への衣類の受け渡しについては、支援施設事務所および全国77県の担当者合わせて88名の方が施設生活者の現状を確認し本部に申請して配布している。
- ④ 災害発生の有無に関わらず、衣類を必要としている方への配布については、政府が管理しているデータに基づき、年間所得3万バーツ以下の人を対象に、地方行政区分の中で町役場的な所の、日本でいう民生委員のような役割の方によって申請がされ、地域の貧しい人たちへの配布も行っており、都度、配布証明書が発行されるとのこと。
- ⑤ 不足している衣類については、男性の夏物衣類とレインコートが不足しているとのこと。

タイの街並みは、ラオスからタイに移動したこともあってか、かなり発展しているように思えたが、まだまだ、地方では衣類を必要としている人々がいるので、不足している衣類もあることが確認できた。全てのニーズに応えることは難しいと思うが今後も継続した支援が必要だと思った。



2020年1月31日 (金)

15:00～ 在タイ日本国大使館

報告：谷口 憂也

山根木団長から挨拶を行い、訪問受け入れに対するお礼と、タイ・社会開発福祉省にて衣類引き渡し式を行ってきたことの報告や、タイとラオスで行ってきたこと、タイ・ラオスそれぞれで感じたことなどを述べた後、関口昇公使よりタイ経済の現状を中心に説明を受け、岡本直也二等書記官よりタイの労働事情を中心に状況説明を受け、意見交換を行った。説明内容は以下のとおり。

＜タイの経済等の概要＞

- ・タイ経済は、米中貿易摩擦等の影響により、現在5年ぶりの低い成長。加えて少子高齢化により特に生産年齢人口の減少が懸念される。
- ・今後、第一次産業の生産性を高めつつ、より生産性の高い製造業やサービス産業に産業構造の重心を移していく必要がある。
- ・タイへの直接投資については、これまで日本が1位であったが、去年は、米中貿易摩擦や中国国内の賃金上昇を背景に、中国が日本を抜いて初めて1位に躍進。
- ・女性の社会進出が進んでいるが、その反面、教育に費用がかかるため未婚者が多いというのが現状。

＜タイの労働事情・労働政策等の概要＞

- ・総人口は6,619万人。労働人口は3,810万人。いずれも日本の約半分超。
- ・産業別労働者では、農林水産業が32%（日本は3%）、製造業が17%、小売が17%、建設が7%と、農林水産業の比重が多い。
- ・全就業人口の17%程度である製造業就業者が、GDPの33%を生み出す一方、全就業人口の1/3を占める農業はGDPの10%を生み出すにとどまる。
- ・女性の就業率（特に20代後半から40代）は高く、管理職に占める女性の割合も32.9%（2016年）と高く、女性の社会進出が進んでいる。
- ・タイの労働組合の組織率は、2～3%程度（民間企業の労働組合数1,365、組合員数441,789 2017年度）と低く、労働者側からは、軍政の下で労働組合の活動が実施しにくくなっているとの指摘もある。

＜タイの国民性等について＞

- ・タイの国民性は比較的温厚な性格であり、外国人に対する人種差別などほとんどない。
 - ・幼いころから大事に育てられる文化が強く、怒られることがほとんどない為、怒られる事に慣れてなく、上司などに怒られるとすぐに辞めてしまう。
 - ・学歴が高く、日系企業などに勤めていても、ストレスや自分に合わない、やりたくない仕事があると辞めて農業やタクシードライバー、屋台などに転職する人が多い。
 - ・自分にストレスを溜めてまで、やりたくない仕事をするよりも、自分のやりたい（満足度の高い）仕事をする傾向にある。
- 今後のCSAの活動や、自身の仕事、組合活動の参考となる大変良い機会となった。



在タイ日本国大使館の前で

18:00～ お別れ夕食

バンコク市内のショッピングモールのレストランでお別れ夕食会を行った。

山根木団長からは、「メンバーの協力によって、全員無事に予定されていた日程をこなすことができた」とお礼と労いの挨拶があった。メンバーからは、「いい仲間めぐりあえた」、「現地視察や経験を職場に報告したい」、「役割分担が明確でよかった」等の声が出され、同じ経験をした仲間の労を労いあった。

22:50 NH850便 バンコク →

2020年2月1日 (土)

6:30 羽田空港着

6時間弱で無事羽田に到着。入国審査、荷物を受け取り、到着ゲートの外で山根木団長の解団宣言の後、別れを惜しみながら再会を誓い、それぞれ帰路についた。



ラオス衣類倉庫



クッサンバット小学校で折紙教室



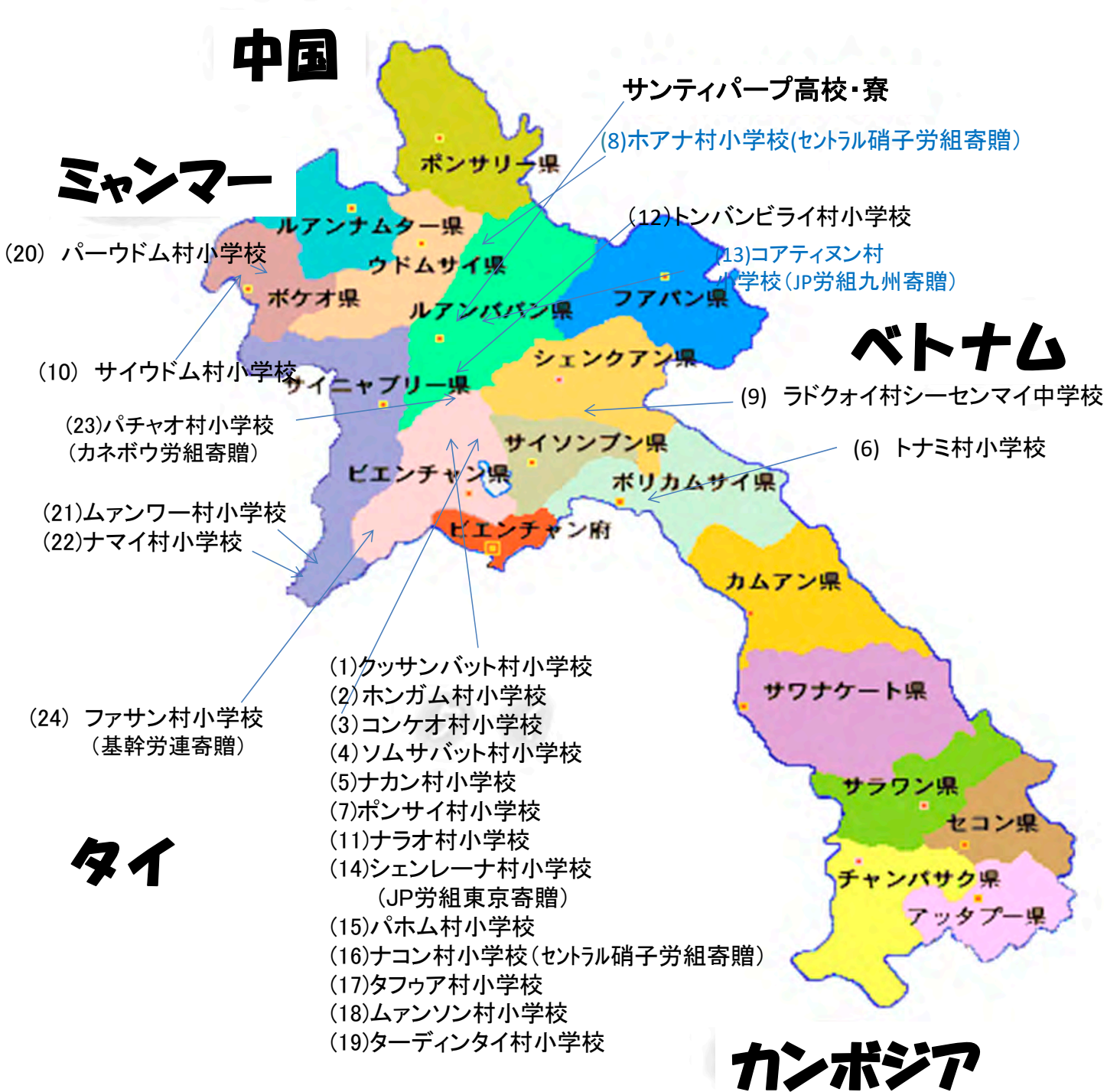
到着した衣類を整理するタイの倉庫



高校生寮でガンバロー!

ラオスにおけるアジア連帯委員会(CSA)

教育事業 — 小学校建設地



2020年1月現在